

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況 (院)

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究者および教員のレベルでの国際共同研究会を毎年主催、共催する。	→国際交流研究会の開催数および文部科学省科学研究費補助金などによる国際共同研究プロジェクトへの参加者数。	B	B			
2. 留学生を含む出身国との学生と本研究科の学生の研究交流の機会を増やす。	→院生および修了生による国際交流研究会の開催数および参加者数。	C	C			
3. 院生に対する国際理解、国際協力のための学習機会を提供する。	→国際理解や国際協力のための講演会、講習会、シンポジウム、フォーラムなどの開催数。	B	B			
4. 研究科担当教員に外国人教員を確保する。	→大学院教員総数に占める外国人教員の比率。	B	B			
☆						
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目 7.0.1	7.0.1 国際交流 (国内外における教育研究交流) についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いづれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (方針) 国際交流について教育研究交流に関しては国際学会での発表や海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査など積極的に取り組んでいる。 (説明) 国際学会での発表、海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査など積極的に取り組んでいる。
★ 小項目 7.0.2	7.0.2 国際交流 (国内外における教育研究交流) を適切に行っているか。 (説明) 教員の教育研究交流は、国際学会での発表や海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査などが行われている。
★ その他	

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【人間福祉研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	/	/	-	-	-	-		
指標2	国際交流協定締結国数		国	/	/	-	-	-	-		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	/	/	-	-	-	/	累計数	
		外国人留学生	正規	人	/	/	4	1	3	4	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	/	/	0	0	0	/	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	/	/	14.8	3.7	8.1	1.6	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	/	/	0.0	0.0	0.0	/	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	/	/	-	-	-	/				
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	/	/	-	-	-	/	累計数	
		人数	長期	人	/	/	0	0	0	/	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	/	/	0	0	0	/	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	/	/	0.0	0.0	0.0	/	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	/	/	0.0	0.0	0.0	/	
指標5	海外からの受け入れ教員数		長期	人	/	/	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	/	/	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数		長期	人	/	/	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
			短期	人	/	/	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	/	/	-	-	-	/	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

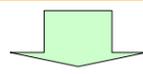
(その他の指標)
協定校と相互交流数(学生・教員)
国別国際交流協定締結先機関数
国別留学生数(学部別)の経年変化

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

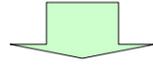
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	留学生を含む出身国との学生と本研究科の学生の研究交流の機会を増やす必要がある。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
★ 小項目 7.0.2	本研究科の学生の研究交流、および海外での派遣や調査研究を行う機会を増やす必要がある。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】《次年度に向けた方策》

★ その他 (自由記述)	
--------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○国際学会やゲストスピーカーを招へいた研究会、海外での研究調査など積極的な取り組みが評価できます。研究科の設置が最近なので仕方がない面がありますが、大学院生の国際交流など今後の努力が期待されます。

【学内委員】

○海外への学生派遣数が0ですが、積極的に海外へ出て行く環境の整備が期待されます。

○「国際学会での発表、海外からゲストスピーカーを招聘した研究会の開催、海外への研究調査など積極的に取り組んでいる。」とのことですが、具体的な名前を挙げて、より丁寧に紹介することが期待されます。

○小項目7.0.1の(方針)は人間福祉研究科の国際交流方針を書いてください。現記述は方針ではありません。

○小項目7.0.2の説明は不十分と言わざるを得ません。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、各小項目についてもう少し詳しく現状説明されることが必要です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目7.0.1(方針)

国際交流は少子高齢化やグローバル化等を背景にして、「人間と社会(環境)の相互作用」の中で生起し複雑化する社会福祉に関わる諸問題に対応すべく、より幅広い研究及び教育、そして社会への貢献といった諸側面から対応できることを方針としている。

★ 小項目7.0.1(説明)
国際学会での発表は32件(学会名は省略)、海外への研究調査34件(研究調査先は省略)を行い積極的に取り組んでいる。